遠隔日本語教育の実践–淡江大学（台湾）とのジョイントエデュケーション

東京外国語大学

国際日本学研究院

林俊成

平成28年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業・東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門共催

発表内容

- 東京外国語大学における遠隔言語教育の歩み
- ジョイントエデュケーション
  - 授業内容
  - 授業スケジュール
  - 反転講義教材
  - お互いの授業フィードバック
- 授業評価
  - ARCSモデルによる評価
  - 台湾側学生アンケート評価
- まとめ

平成28年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業・東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門共催

東京外国語大学における遠隔言語教育の歩み

- 外語大中国語学科と淡江大日本語学科の協働授業（学部3年生学生）
  - 2004年-2011年まで実施
    - お互い近い授業時間を設定し、授業で遠隔接続を実施
  - 特徴ーお互いの学習言語を用いて、発表・ディスカッション・演劇などの形式で、学び合う
- 外語大日本語教育専修コースと淡江大学日本語学科遠隔日本語教育授業（外語大修士1年学生・淡江大学部3年生学生
  - 2013年-2015年まで実施
    - お互い近い授業時間を設定し、授業で遠隔接続を実施
  - 特徴ー外語大日本語専修1年大学院学生に日本語学習者と対面し、自分の研究と関連するテーマを設定して、アンケート調査・エラー分析などで小さな論文を完成する

平成28年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業・東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門共催

ジョイントエデュケーション

- 2016年により、
  - 台湾淡江大日本語専修コース２年生第一学期学生（N3～N2)
  - 日本外語大外語大GCコース日本語教育専攻3年生秋学期
    - 遠隔による日本語教育実習
    - 現地日本語教育実習
- 本報告→「遠隔による日本語教育実習」を中心
  - 授業目的
    - インターネットによる日本語教育技法を学習し、実際の日本語学習者と対面し、日本語を教えること
    - 相手大学の教科書を分析し、教案を作成して、実習に挑むこと
  - 授業内容
    - １．接続練習及び既習内容の会話練習
    - ２．教案を利用した教育実習
    - ３．自作した教案を利用した教育実習
    - ４．Web教材を作成し、反転講義形式の教育実習

平成28年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業・東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門共催

ジョイントエデュケーション

- 授業参加にあたって
  - 自宅に随時接続回線およびコンピュータ（ノートパソコン可）を有すること
  - ヘッドフォンセット（イヤホーンだけも可）を有すること
- 毎回授業後
  - 台湾の学生にアンケートを実施し、討論する。
- 期末
  - 期末にレポート作成と発表を行う。
  - 台湾学生への成績評価
    - １０点満点、台湾学生成績の１割を占める

遠隔日本語教育実習

- 利用する教科書
  - 情境日本語（日本語生中継)初中級篇 1
- 接続実施スケジュール

	内容	遠隔実施時間	アンケート実施時間	備考
第一回	第2課	10/20-10/29	10/23-11/1	
第二回	第3課	11/3-11/12	11/6-11/15	
第三回	第4課	11/29-12/10	12/4-12/13	外語祭・期中考試
第四回	第5課	12/15-12/24	12/118-12/27	

- 実施内容
  - １回目→台湾側既習内容のため、教科書内容を確認し、話し合うこと
  - ２回目→用意された教案に基き、教えること
  - ３回目→教案を作成し、教えること
  - ４回目→反転講義用の動画を作成し、前もって利用することでの教育実習

平成28年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業・東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門共催

反転講義教材の例　単語

単語の確認をしましょう

洗濯機（せんたくき）	CD	コート	ネクタイ

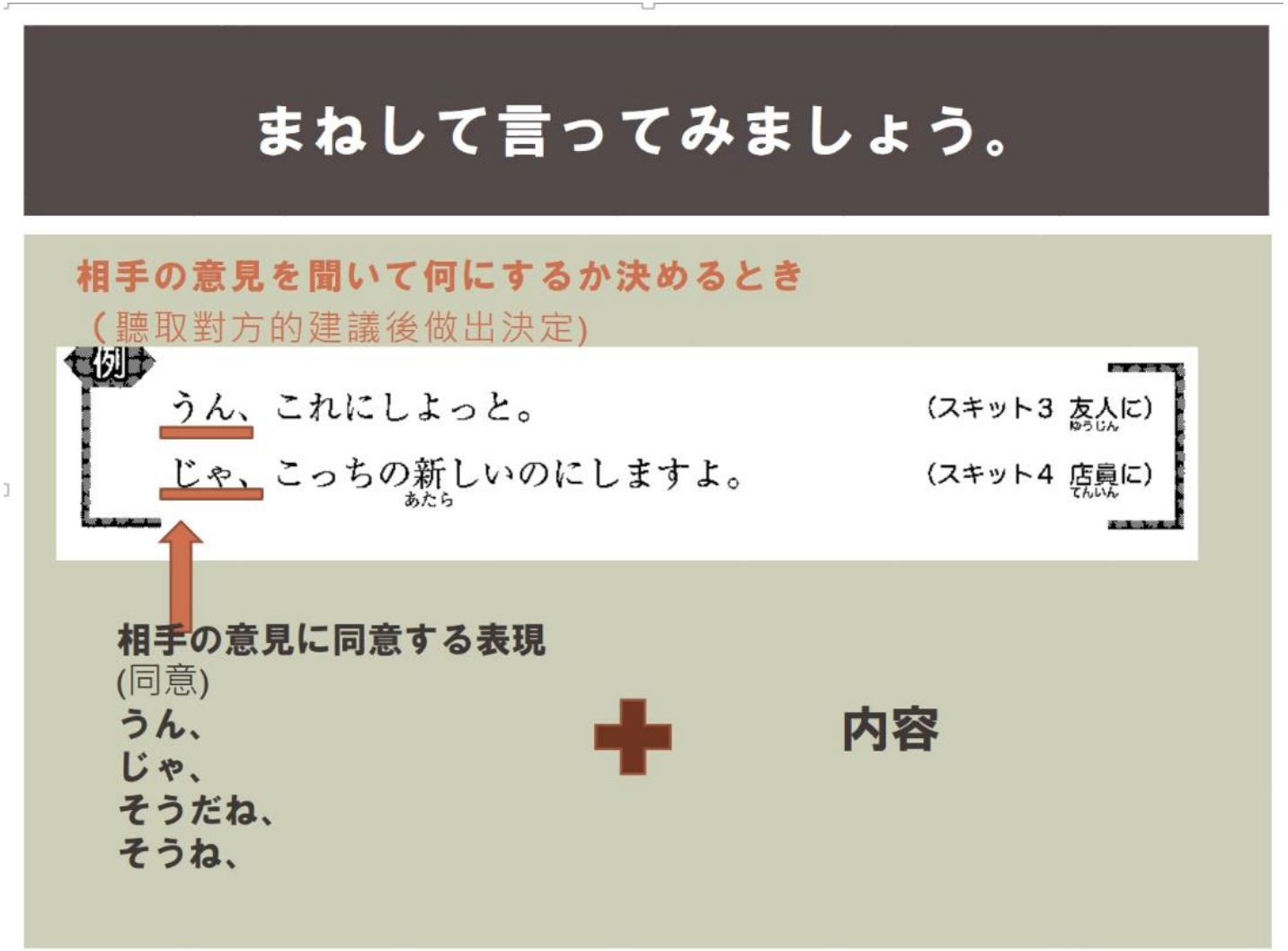
pixta.jp - 9521217

00:44.44　00:46.12

7

平成28年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業・東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門共催

反転講義教材の例　重要表現



台湾学生からのフィードバック

	今回は、説明を中心となった。先生の教え方について、例を挙げて、１．理解していないところ。２．先生の説明方法。３．自分の理解したこと。４．この説明方法の評価。を述べてください。
第一：容易搞混的單字 第二：老師用word打出字與字之間的差別解釋 第三：能夠區分出差別 第四：很好，讓人易於理解差別	第一混乱しやすい単語 第二先生がWordを使ってその単語間の違いを説明 第三区別しやすい 第四非常にいい方法。違いを簡単に理解できた。
覺得老師有時會不知道怎麼解釋名詞或感覺....等等	たまには、どうやって名詞や感覚をどう説明するかわからないと感じる
有個單字"気まぐれ"原本一直不了解他在課文裡的意思到底是什麼(因為查了字典發現解釋是反覆無常，但這個意思放進課文裡解釋很奇怪)，後來在講解時老師就有說第二個意思是拼盤.拼湊的意思才知道課本裡所使用的是這個意思。	「気まぐれ」この単語の意味がわからなくて、(辞書では、予測できないと解釈しているが、文の内容とあわないので、おかしいと想った)その後、先生の説明で、2番目の意味は、寄せ集めの意味であったので、やっと教科書での意味がわかった。
像是第三課是有關於餐廳的一課，在課文難免會有很多菜名是不熟悉的，老師會使用「螢幕畫面共享」來一邊查詢圖片一邊做講解，讓教學更生動，也讓我們看到圖片一目瞭然。 我覺得這個方法很不錯，單只是耳朵聽老師講解，加上眼睛的輔助可以學習得更快。	第三かのレストラン、教科書に多くの料理の名前がわからなくて、先生は、共有を使って、図を探して、生き生きとした説明してくれた。図をみると一目瞭然でもあった。この方法は、本当にいいだと想います。単なる耳を使って先生の説明を聞くだけではなく、目の補助によって、もっと早く学習ができる。

お互いのフィードバック

- 毎回授業終了後、台湾学生からのアンケート
  - 今回と前回とも同じ教員であり、前回の授業と比べて、状況は、どうですか？良し悪し共先生にフィードバックしてください。
    - 前回よりよかった、前回は、音声ファイルに雑音があったが、この回は、スムーズだった。先生は、数頁のPPTを作成して、教科書の例文で置き換え練習を行った。非常にいいだと思った。
    - 前回の授業と比べて、さらにスムーズになったし、インターアクションも多くなった。先生は、私たちに日本語で単語と文型を理解させる。答えられなかったら、先生は、答えられるように導いてくれた。最後、もう一度解釈する。今回は、授業時間が1時間ですが、その後、さらに1時間話しました。多くの日本語を話す機会を与えてくれた。
    - 今回は、情況がよくなった。第1回、お互いに緊張したから

お互いのフィードバック

- 毎回授業終了後、台湾学生からのアンケート
  - 今回は、説明を中心となった。先生の教え方について、例を挙げて、１．理解していないところ。２．先生の説明方法。３．自分の理解したこと。４．この説明方法の評価。を述べてください。
    - 「気まぐれ」この単語の意味がわからなくて、(辞書では、予測できないと解釈しているが、文の内容とあわないので、おかしいと想った)その後、先生の説明で、2番目の意味は、寄せ集めの意味であったので、やっと教科書での意味がわかった。
    - １．「注文する」と「頼む」の使い方　　２．先生は、例文を用いて説明する方法　　３．レストランで、メニューを選ぶのは、注文、しかし、その他の要求、例えば、小さな皿などは、頼むを使う。　　４．この方法が非常にいい、学生は、すぐ理解できたし、すぐ覚えた。
- 日本学生２回目終了後手紙を出す
- 台湾学生からの手紙を日本語添削で返す
- ４回目終了後、点数をつけて、

今度の遠隔教育はありがとうございました。授業の前に、緊張しながら楽しみにしていました。初めての授業はまた緊張してしまったから、ほんの少ししか言葉を話しませんでした。でも、練習しなければ、悔しい感じがあるので、私は機会をつかみました。その後、日本語を話すということは難しくなかったと思いました。

先生の授業は、面白かで、私はたくさん言い方を学びました。とても楽しかったです。先生もお疲れさまでした！機会があれば、もう一度一緒に授業をします！

ARCS評価

- 動機づけ理論ARCSによる授業評価
  - Attention 注意喚起　→　学生の**関心を獲得**する。学ぶ好奇心を刺激する。
  - Relevance 関連性　→ 学生の**肯定的な態度に作用する**個人的ニーズや ゴールを満たす。
  - Confidence 自信　→ 学生が**成功できること**、ま た、成功は自分たちの工 夫次第であることを**確信・ 実感**するための助けをする。
  - Satisfaction 満足感　→　インセンティブによって**達成を強化**する。

	ARCSによる調査	日本側	台湾側
注意喚起	1．　あなたにとってこの授業は、魅力的だった？	4.5	4.5
	2．　このタイプの授業は、面白かった？	4.4	4.5
関連性	3．　この授業では、やりがいがあった？	4.8	4.6
	4.　この授業では、あなたのチャレンジ精神がくすぐられた？	4.3	4.1
自信	5．　この授業によって、あなたは（日本語を教えること/日本語を話すこと）に自信をついた？	3.9	3.8
満足感	6．　あなたにとって、この授業で満足感をえられた？	4.4	4.3

平成28年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業・東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門共催

台湾授業アンケート

1	この授業で、日本語への興味が以前より増しました。	4
2	この授業で、日本のことをもっと理解したと思いましたか。	4.3
3	この授業で、他の日本語の授業をもっと頑張ろうと思ったようになりましたか。	4.3
4	この授業で、自分の日本語のリスニング能力が向上したと思いますか。	4.5
5	この授業で、自分の日本語の文法力が向上したと思いますか。	3.6
6	この授業で自分の日本語の語彙数が増えたと思いますか。	4.6
7	この授業で、自分の日本語のスピーキング能力が向上したと思いますか。	4.5
8	この授業で、自分の日本語のライティング能力が向上したと思いますか。	3.6
9	この授業を受けることによって、自分の語学力の向上に役に立ちましたか。	4.6

まとめ

- インターネットによる日本語教育の可能性？
  - アンケート結果がよさそうだが・・・・
    - いたって少人数
  - 現地学生にとってインプット・アウトプットの環境
    - 言語使用環境の提供
- 英語だけではなく、多言語によるコミュニケーション
  - 単なる言語学習ではなく、言語を教えるも必要
    - 一人ひとり言語教師になりうる？
- 学生から→IT技術が非常に向上した